

社会福祉法人ひかり

平成28年度 事業報告

目次

【法人の理念】	．．．．．	P. 1
【法人の使命】	．．．．．	P. 1
1. 法人運営について	．．．．．	P. 2
2. 経営会議について	．．．．．	P. 3
3. 職員の退職・入職について	．．．．．	P. 3
4. 新たな事業展開	．．．．．	P. 4
5. 情報発信力の強化	．．．．．	P. 4
6. 人材育成および資質向上	．．．．．	P. 4
I. 東戸塚地域活動ホームひかり		
1. 日中活動事業	．．．．．	P. 5
2. 生活支援事業	．．．．．	P. 13
3. 相談支援事業	．．．．．	P. 20
4. おもちゃ文庫事業	．．．．．	P. 26
5. 余暇活動支援事業	．．．．．	P. 28
6. 地域交流事業	．．．．．	P. 29
7. 各委員会	．．．．．	P. 31
II. ラフォーレさくら	．．．．．	P. 33
III. 後見的支援センターとつかエコー	．．．．．	P. 38
IV. ホープ川上	．．．．．	P. 42

【法人の理念】

「人間らしく生きること」

すべての人が、人間として、その人らしく生きることを支援します。

【法人の使命】

1. 社会福祉法人設立後 10 年を経て、本年は事業開始 10 年目という節目に当たり、今日までの法人運営の歩みを振り返るとともに今日的課題に問題意識をすえ、かつ 10 年先を見通して障がい福祉に取り組むことを再確認します。
2. 地域で暮らす障がいのある方々は、QOL（生活の質）を高めるために多様な福祉サービスを望んでおり、支援者は当事者のもっとも身近な相談者であるという立場を自覚し、自尊心と自己決定権を尊重し、合理的配慮にこころがけ、一貫した当事者主権の姿勢を維持していきます。
3. 戸塚区内および近隣区の福祉・教育・保健・医療等の関係機関、団体と連携し、地域福祉の拠点、障がい福祉を支えるネットワーク形成の拠点としての役割を担い、当事者活動等を積極的に支援するとともに、地域社会での障がいのある方々への理解を促進させるよう取り組みます。

地域福祉に不可欠な“シンプルにつながる”ネットワークを目指すとともに、障害者後見的支援制度のひろがり、基幹相談支援センターの円滑な事業展開、多様性と柔軟性、そして独創性のある地域活動ホームの運営により、障がいのある方々の暮らしを総合的に支えるよう事業を進めます。
4. 社会生活がますます多様化するなかで、職員は常に何を大切にすることか学ぶことを忘れず、障がい福祉をとりまく社会環境の中の自らの立ち位置に問題意識をもち、障がい当事者に寄り添い生活のし辛さに着目し、日々関わる人たちにとっても、地域社会の変革に臨む信頼感ある良き理解者・よき相談者・求められる人財となるよう自己研鑽に努めます。

1. 法人運営について

今年度の理事会・評議員会の開催状況は、以下の通りです。

	日 時	内 容
第 53 回 評議員会 第 55 回 理事会	平成 28 年 5 月 25 日 (水) 18:00～18:45 18:45～19:30	《議決事項》 ・平成 27 年度 事業報告案の件 ・平成 27 年度 決算案の件 ・平成 27 年度 監事監査報告の件 ・特定個人情報取扱規程の制定の件 ・経理規程改正の件
第 54 回 評議員会 第 56 回 理事会	平成 28 年 12 月 16 日 (金) 18:00～18:30 18:30～19:00	《報告事項》 ・会計事務所との契約の件 《議決事項》 ・平成 28 年度 上半期事業報告案の件 ・平成 28 年度 第一次補正予算案の件 ・就業規則一部改訂の件 ・定款変更の件 ・評議員選任・解任委員会設置の件 〈理事会〉 ・評議員退任の件
第 55 回 評議員会	平成 28 年 12 月 16 日 (金) 19:00～19:15	《議決事項》 ・理事退任の件 ・監事退任の件 ・理事選任の件 ・監事選任の件
第 57 回 理事会	平成 28 年 12 月 16 日 (金) 19:15～19:30	《議決事項》 ・新役員同意の件 ・評議員選任・解任委員の任命の件 ・新評議員選任候補者推薦の件
第 56 回 評議員会 第 58 回 理事会	平成 29 年 3 月 24 日 (金) 18:00～18:45 18:45～19:30	《議決事項》 ・平成 28 年度 最終補正予算案の件 ・平成 29 年度 事業計画案の件 ・平成 29 年度 当初予算案の件 ・経理規程一部改訂の件 《報告事項》 ・平成 29 年 4 月 1 日以降の 社会福祉法人ひかり役員・評議員等について

社会福祉法の改正（平成 29 年 4 月 1 日施行）に伴い、定款変更の手続きを行いました。また、その定款に定めた方法により、評議員選任・解任委員会を設置して、新たに評議員を選任しました。

2. 経営会議について

理事長、理事、施設長を構成メンバーとして、経営・運営上の課題検討に加え、新規事業の検討、理事会・評議員会の準備と開催時期など、毎月 1 回開催しました。

3. 職員の退職・入職について

< 東戸塚地域活動ホームひかり >

退職

平成 28 年 9 月	生活支援員	(常勤職員	: 男性)
12 月	生活支援員	(パート	: 女性)
平成 29 年 1 月	生活支援員	(常勤職員	: 男性)
3 月	生活支援員	(パート	: 女性)

入職

平成 28 年 7 月	生活支援員	(パート	: 女性)
12 月	生活支援員	(常勤職員	: 男性)
平成 29 年 2 月	生活支援員	(パート	: 女性)

< ラフォーレさくら >

退職

平成 28 年 10 月	生活支援員	(常勤職員	: 女性)
--------------	-------	-------	-------

入職

平成 29 年 1 月	生活支援員	(パート	: 男性)
	生活支援員	(パート	: 女性)
	生活支援員	(パート	: 女性)

< とつかエコー >

退職

平成 28 年 4 月	あんしんサポーター	(パート	: 女性)
-------------	-----------	------	-------

入職

平成 28 年 4 月	あんしんサポーター	(パート	: 女性) ※10 月～常勤職員
-------------	-----------	------	------------------

< ホープ川上 >

入職

平成 28 年 12 月	世話人 兼生活支援員	(パート	: 男性)
平成 29 年 1 月	世話人	(パート	: 女性)

4. 新たな事業展開 - 共同生活援助（グループホーム）

平成 29 年 1 月に共同生活援助の事業所指定を受け、サービスを開始しました。
3 月末時点で、入居者は 4 名となっています。

- ◆事業所名 ホープ川上
- ◆所在地 横浜市戸塚区川上町 766-1
※最寄駅 JR 東戸塚駅～ 徒歩約 11 分（約 880m）
“東戸塚地域活動ホームひかり” から徒歩約 15 分（約 910m）
- ◆構造 軽量鉄骨
- ◆定員 男性 6 名
- ◆居室 1 階 1 室 2 階 5 室

5. 情報発信力の強化

音声による情報発信として、戸塚区のコミュニティ FM 局として、地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」という番組の提供に加わりました。番組の中で、パン工房や喫茶、日中活動の自主製品を利用者の声を交えて紹介していただきました。また、同番組の他スポンサーと一緒に平成 27 年 4 月に開学した湘南医療大学（戸塚区上品濃）を見学しました。

6. 人材育成および資質向上

施設で実施した内部研修、参加した外部研修は、以下の通りです。関係職員を参加させ、職員の資質向上に努めました。

個別に参加した研修については各事業で報告しています。

No	開催月	研修名	場所
1	6 月	第 8 回 地域活動ホーム合同研修会	横浜市開港記念会館
2	11 月	JAF 自動車研修	ほどがや地域活動ホームゆめ
3	1 月	法人型障害者地域活動ホーム看護師等巡回相談事業 障害者の摂食・嚥下に関する研修	東戸塚地域活動ホームひかり
4	2 月	障害者地域活動ホーム、多機能型拠点看護師等会議	横浜医療福祉センター港南
5	3 月	介護研修（移動・移乗介助）	東戸塚地域活動ホームひかり

I. 東戸塚地域活動ホームひかり

1. 日中活動事業

(1) 利用実績

<平成 28 年度>

生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	19	22	20	19	20	20	20	19	19	20	22	240	20
延利用者数	588	535	647	587	533	576	591	572	550	546	595	654	6974	581.1
利用者数/日	29	28	29	29	28	29	30	29	29	29	30	30	-	29.0
入浴利用人数	32	30	33	32	33	23	33	24	29	24	29	29	351	29.2
送迎利用人数	742	676	787	730	676	741	747	710	679	694	695	745	8622	718.5

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	19	22	20	19	20	20	20	19	19	20	22	240	20
延利用者数	47	48	54	48	40	46	48	47	46	45	49	52	570	47.5
利用者数/日	2.3	2.5	2.4	2.4	2.1	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	2.5	2.3	-	2.3
入浴利用人数	4	3	5	4	4	4	4	4	3	4	4	4	47	3.9
送迎利用人数	20	20	22	22	14	21	20	20	18	18	20	22	237	19.7

<平成 27 年度>

生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	21	18	22	22	19	19	21	19	19	19	20	21	240	20
延利用者数	669	588	699	718	576	592	641	548	522	500	567	595	7215	601.2
利用者数/日	32	33	32	33	30	31	31	29	28	26	25	28	-	29.8
入浴利用人数	45	33	47	45	37	39	34	40	31	26	41	31	449	37.4
送迎利用人数	755	653	809	839	667	708	735	666	653	621	725	754	8585	715.4

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	21	18	22	22	19	19	21	19	19	19	20	21	240	20
延利用者数	50	39	46	49	38	46	51	48	42	36	44	44	533	44.4
利用者数/日	2.4	2.2	2.1	2.2	2	2.4	2.4	2.5	2.2	1.9	2.2	2.1	-	2.2
入浴利用人数	12	11	13	12	11	11	12	12	10	8	4	5	121	10.1
送迎利用人数	21	19	22	23	21	20	20	22	20	16	21	17	242	20.1

新卒の利用者1名が加わり、7月に1名と2月に1名、それぞれ既卒の利用者を受け入れました。年間を通じて4名の方が退所されているので、3月末時点の利用者数は、60名となりました。平成29年度は、新卒の利用者2名を受け入れ、62名でのスタートとなります。

平成27年度後半に利用者の退所が重なったこと、また契約があっても通所できていない利用者が増えていることもあり、1日あたりの利用者数が定員割れになる状況が続いています。グループ別に、DEMとカシオペアの利用者減が顕著になっていることから、この2グループを中心に新卒、既卒を問わず、多くの利用者実習を受け入れました。今後も現状に即して、安定した通所利用者の確保を目指します。

(2) 日中活動全体

1) 職員体制

2年間にわたる“半年ごとの職員異動”により、グループの垣根を越えてパートを含む職員の、利用者に対する理解が深まりました。職員は自らのグループのみにとらわれず、それぞれが日中活動全体を俯瞰して、その日必要な人員配置を主体的かつ柔軟にとれるようになりました。

パート職員に対しても同じことが言えますが、その反面、ほぼ2ヶ月毎に起こる人事異動で指揮系統や自らの“立ち位置”のとらえかたに迷いを生じさせてしまう結果にもなりました。来年度も半年ごとの異動は行いますが、グループごとの状況を踏まえた上で出来る限り小幅なものとしていきます。

2) ケア会議

年間を通して7回開催しました。

日中活動の連絡事項、ヒヤリ・ハットの報告と改善策、および利用者一人ひとりの支援方法について話し合いました。具体的には、今年度より始まった宿泊旅行に関して、安全に実施できるように職員間で意見交換を行いました。当日の流れや注意すべき点を確認し合う事で、円滑な旅行を目指しました。

支援方法に関しては、欠席が多い利用者へのアプローチ方法や、不穏・こだわりのある利用者への対応方法などを検討しました。

その他には、将来的にひかりの利用を見据えた方々の受け入れについて議論しました。

ケア会議を通じて、職員間で利用者の支援方法について協議し、理解を深め、統一化を図ることによって、一人ひとりに目を向けた支援ができました。

勤務シフトその他の要因で参加職員の調整がつかず、会議が先延ばしになることも多くありました。来年度は、あらかじめ日時を設定しての月例会議とすることで、職員間の情報共有を密にします。

3) 土曜余暇活動

年間6回の土曜余暇を実施しました。

外出が3回、室内の活動が3回でした。どの活動も平日のプログラムでは、実現が難しい内容で、土曜余暇の価値や意義を示すものでした。利用者、ご家族にも定着しています。来年度も過去のプログラムを考察してより良い余暇支援事業として、継続していきます。

<開催日とプログラム>

No.	開催日	プログラム
1	5月21日	春を食べつくそう&ウォーキング
2	7月16日	韓国料理で夏を乗り切ろう
3	9月17日	あーすぷらざに行こう
4	12月10日	ひかりでクリスマス
5	1月21日	ひかりで新年会をしよう
6	3月11日	チラシ寿司を食べて、カラオケに行こう

4) 宿泊旅行

6月に伊豆長岡へ、11月に伊豆高原へ旅行しました。

複数の旅行会社から相見積もりを取って選定し、下見もしっかり行った上で綿密な計画を練って当日に臨みました。6月の旅行では大きな混乱もなく、概ね計画通りに運びましたが、11月の旅行では突発的な介助の対応による人員不足などから、旅行を楽しんでいただく余裕が少なくなってしまうことが反省点として残りました。

とはいえ、普段は外出が難しい方にも等しく旅行の機会を設けて、様々な経験を積んでいただくことには大きな意義があると考えます。同時に、同行する職員にとっても、利用者の日中ではわからなかった側面がみられたり、突発的な事象に対応するスキルなど、普段の業務では得難い経験ができるイベントであると言えます。このことから、今年度の反省を踏まえて、来年度もより良い旅行を計画していきます。

5) 地域とのつながり

自主製品の販売を通じて地域への発信と繋がりを深める目的で、ひかりを含めた区内4事業所で展開している「T'sくらふと+」も、名称が決まってから2年目を迎えました。秋にはオリジナルのパンフレットを制作して配布をし始めました。

昨年同様、各事業所の販売ネットワークに基づいたお祭りやバザーに相乗りする形が主ですが、新規開拓した販売にも参加できるので、1つの事業所ではなし得なかった販売機会の構築が出来ました。

お客様の中には、商品の大きさや希望の形などのアイデアをくださる方もいて、新商品の考案や製作につなげることもできました。また、お客様の中には、どこで購入できるかを聞かれてこられる方や、「使用感が良かった」と、再度購入してくだ

さる方も見られました。そういった点からも、販売機会が広がった効果による「T's くらふと+」の認知度も少しずつではありますが、広がってきているように感じます。

6) 情報の発信

日中活動利用者、ご家族対象に「その人らしく」のお便りを3か月に一度、継続して配布しました。季節行事や土曜余暇の様子、普段行っている活動や一日外出等の紹介を行いました。また、夏祭りの前日に初の試みとして実施した「プレ夏祭り」を楽しんでいる様子も掲載しました。毎回発行を楽しみに待っているという声もいただきました。来年度も様々な情報を発信していきます。

7) 実習生の受け入れ

高等部3年生4名と、既卒者6名の計10名を受け入れました。

No.	実習			性別	学校名<学年>	居住区	目的
	月	所属	期間				
1	6月	フェニックス	5日間	男性	本郷特別支援学校	戸塚区	進路
2	7月	フェニックス	5日間	男性	港南台ひの特別支援学校	戸塚区	進路
3	10月	DEM	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	戸塚区	進路
4	11月	カシオペア	4日間	女性	既卒	戸塚区	通所
5			4日間	男性	既卒	戸塚区	通所
6	1月	カシオペア	4日間	男性	既卒	戸塚区	通所
7			6日間	男性	既卒	戸塚区	通所
8	2月	カシオペア	7日間	女性	既卒	戸塚区	通所
9			4日間	女性	保土ヶ谷養護学校	保土ヶ谷区	進路
10	3月	DEM	4日間	男性	既卒	戸塚区	通所
		カシオペア	4日間				

(3) 各グループ

1) DEM

新規の利用者は無く、3月末時点で計9名（男性：5名、女性：4名）の在籍となりました。内1名は週1回の通所、さらに1名は年度半ばからほぼ通所できなくなっているため、慢性的なメンバー不足が続いていました。そのことを受けて、実習生の受け入れも行いましたが、通所にはつながりませんでした。女性職員を7月から工房の所属としたほか、喫茶パート職員の離職に伴って、2階のパート職員が1月から異動し、工房と喫茶の兼務となりました。

支援においては、これまで培ってきたものを踏襲しながらも、より良い作業環境を目指して、画一的な対応にならないように工夫しました。

グループホームに入居されている利用者が多いので、グループホーム職員と密に連絡を取り合ったり、計画相談の見学やモニタリングに応じるなど、他施設との連

携を積極的に行ってきました。また、今年度開所したホープ川上に、DEMの利用者も入居しました。ホームと通所の包括的な生活支援のために日々連携して情報を共有するようにしました。

2) カシオペア

既卒の方2名を受け入れ、1名の方が退所されています。3月末時点で計18名（男性：10名、女性：8名）の在籍となりました。

今年度は新しいプログラムの拡大・充実という点から、新たにレジンに取り組みました。まだノウハウがなく、きちんとした製品につながってはいませんが、利用者は楽しそうに取り組まれていました。

エアロビックや絵画教室等、講師を招いたプログラムの提供を継続して行いました。今まで遠いところから見ていた利用者も、教室内に入ってこられるようになるなど、楽しみにしている様子が見えました。一日外出は下半期に2回、横浜周辺の散策をしました。仲間同士での外食やプリクラ撮影を楽しまれていました。

3) ペガサス

3月末時点で計10名（男性：5名、女性：5名）の在籍となりました。

内容に関しては、体重増加・拘縮の予防を目的とした運動や、音楽で体を動かすプログラムなどをメインに取り組みました。その他には、東俣野特別支援学校へ冬フェスのチラシを配布しに行ったり、川上保育園へDEMの製品を配達しに行き、利用者の役割意識や達成感につながる活動を行いました。また、プラ板などの創作活動や、共同作業で大きな貼り絵を作り、廊下に掲示しました。

1日外出に関しては、9月に「はまぎん こども宇宙科学館」へ行きました。

4) ミルキーウェイ

年度当初は6名所属でしたが、2月に1名加わって3月末時点で計7名（男性：7名）の在籍となりました。

活動内容は引き続き木工を軸に行い、カシオペアとの協力で新たに商品化して販売したものもありました。焼きペンの工程は利用者にお任せし、個性豊かなものに仕上がりました。

午後は運動不足解消の為、雨天時以外はなるべく外に出る機会を設けました。ダンスやエアロビックを始めとする、他グループとの合同活動も積極的に参加しました。1月に全員参加の一日外出を実施し、利用者の意向をうかがってカップヌードルミュージアムを満喫しました。

平成27年度終盤から活動に参加できていない利用者が1名いますが、ご家族とも定期的に連絡を取り、短時間ですがほぼ毎日ひかりに顔を出す事が出来ました。

5) フェニックス

新卒者1名を受け入れて利用者18名でスタートしましたが、2月にミルキーウェイへ移籍された方が1名、3月末に退所された方が1名いた為、3月末時点で計16名（男性:10名、女性:6名）の在籍となりました。

活動内容は、引き続き缶潰しを主軸としました。担当作業に習熟する事で責任感を持つ、また、分担の幅を広げる事で新鮮な気持ちで取り組むなど、意欲の向上に努めました。その他、運動の時間を積極的に設け、利用者の体力の維持・増進に努めたり、音楽や動画鑑賞を通じて、新たな興味の発掘・趣向の変化などの把握に努めました。

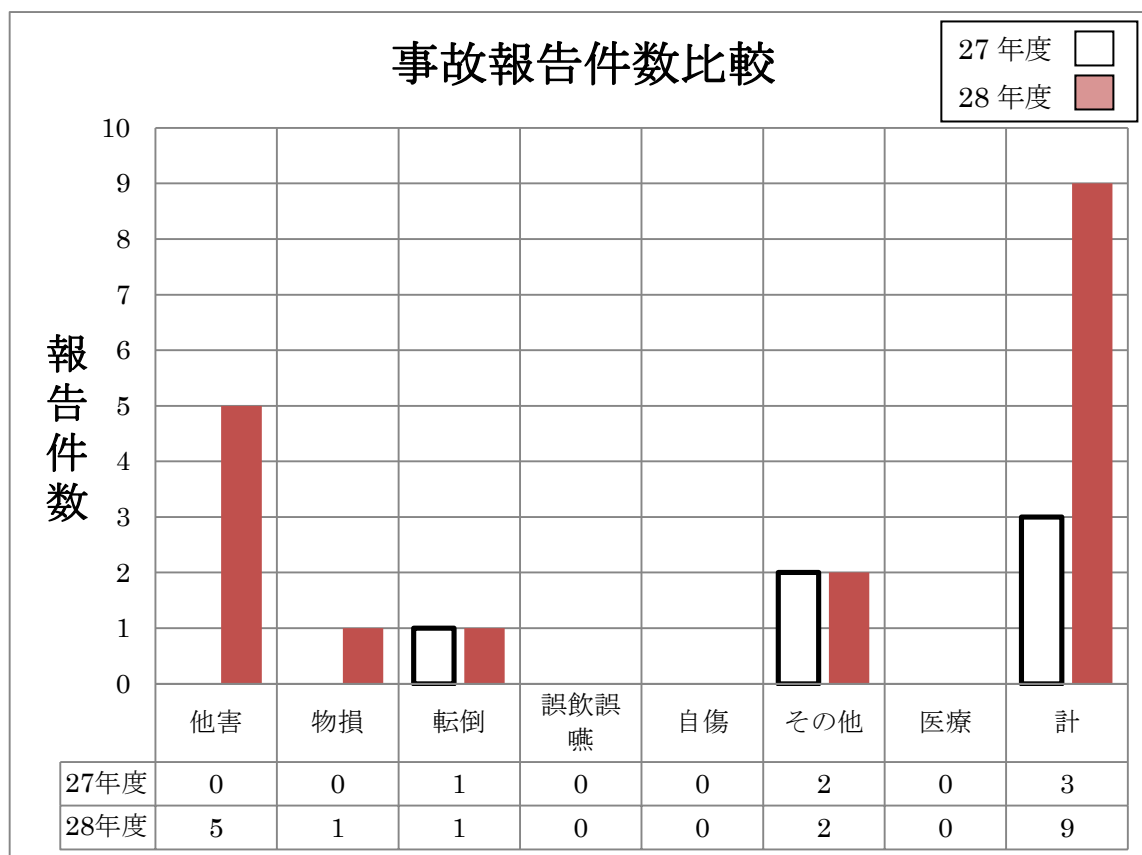
3月には、「しながわ水族館」への一日外出を実施しました。普段以上に発語が見られる、他者への耐性が着実に培われるなど、環境が変わる事により、利用者個々の変化を実感する事が出来ました。

合同プログラム（ダンス・エアロビック）では、数をこなす事により雰囲気にも慣れ、他グループの利用者と一緒に楽しめる行事の一つとして、定着していきました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

計9件の事故が発生しました。



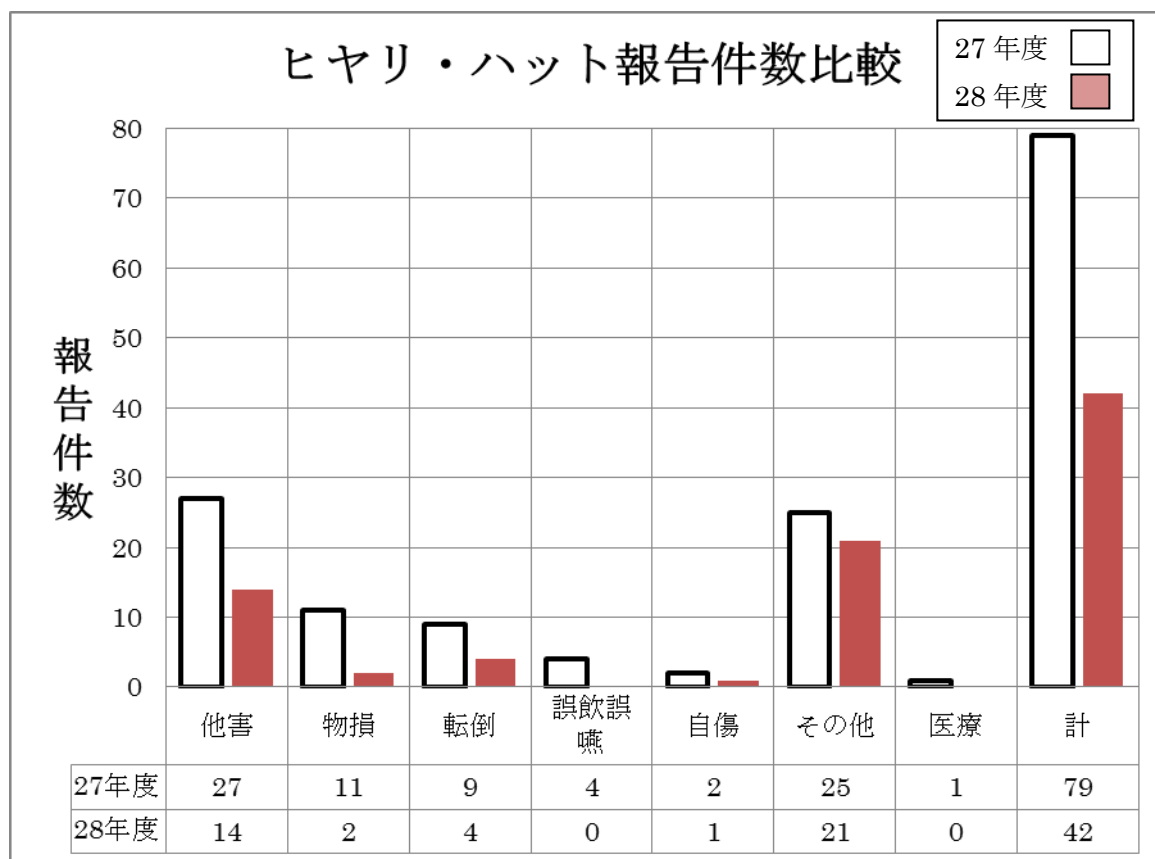
以下、事故の中から、抜粋して掲載していきます。

- ・デイサービス中、突発的な動きによる他害
 →利用者の突発的な動きが予想される中、職員間での情報共有が不十分だった為に対応が出来ませんでした。今後は、細かな情報の共有と状況に合わせた支援体制を敷くことに留意していきます。
- ・デイサービス中、足の脱臼
 →入浴時に脱臼を発見していますが、何が原因で脱臼をしたのかを把握出来ていませんでした。今後は、足を活発に動かされている際に職員が傍に付き添って様子を観察すると共に、入浴前の脱衣の際にはベッドを使用して、臥床したままで脱衣を行うようにします。

2) ヒヤリ・ハット

計 42 件のヒヤリ・ハットが発生しました。平成 27 年度と比較して、全体の報告件数は減少しました。下半期より一部の他害の事例に関して、事故報告として挙げるようにしている事が最も大きな要因として考えられます。

報告件数の内、多かったのはその他 (21 件) ですが、その中でも多かったものが送迎中に起こったヒヤリ・ハットでした。今後は日中活動中のみならず、送迎車内での事故防止に努めていく必要があります。



以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載していきます。

- ・送迎前にドライバーがファイルの位置を何気なく動かした所、走行中にシートベルトを外して、ファイルをもとにあった位置へと戻そうとされていました。
- ・送迎がお伝えしていた時間より、約 30 分遅れてしまい、ご本人が家の外にておひとりで待たれている事がありました。しっかり連絡が取れる連絡先を教えていただくか、別の便での送迎を考える必要がありました。

(5) 学習・研修参加

参加した研修は下記の通りです。

No.	日付		研修名	場所	参加者
	月	日			
1	4月	21日	加藤彰彦氏記念講演	開港記念会館	武藤
2		16日・23日	介護技術研修基本編	県社会福祉会館	武藤
3		26日	接遇・マナー研修	県社会福祉会館	武藤
4	5月	16日・27日	障害福祉入門	市健康福祉総合センター	武藤
5	6月	9日・22日	障害福祉入門	横浜ラポール	武藤
6	11月	11日	アンガーマネージメント	県社会福祉会館	三野
7	12月	7日	モチベーションマネージメント	県社会福祉会館	三野
8	3月	13日	虐待防止研修	ウィリング上大岡	諏訪

2. 生活支援事業

(1) 利用実績

1) 一時ケア

平成 27 年度と比べて、延べ時間が 597.5 時間 (10.9%) 減少しました。

放課後の児童デイサービス等を実施する事業所が数年前から区内・近隣区に増え、近年は就学に伴い、それらのサービスを利用することが一般的となってきました。そのため、低学年の学齢児の定期的な利用がなくなりました。また、今まで定期的な利用のあった児童の中にも、児童デイサービス等との併用利用を開始される方が増え、18 歳以下の利用人数が大幅に減少しました。引き続き当施設の一時ケアを利用している方もいますが、学年が上がるにつれて、下校時間が遅くなるため利用開始時間が遅くなる一方で、帰宅時間は変わらない方が多く、必然的に利用時間が短くなってしまふことが、実績が伸びない要因の一つとなっています。

延べ時間減少の要因として、依頼数の減少とキャンセル数の増加が挙げられます。特に新しいキャンセル理由はなく、体調不良や予定変更、代理の保護者が見つかったことによるキャンセルが目立ちました。

【平成 28 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
～2時間	66	80	76	70	65	65	67	68	68	63	66	76	830	69.2
～4時間	38	30	25	31	24	28	30	32	37	37	33	36	381	31.8
～6時間	15	13	11	23	28	14	18	19	17	19	12	23	212	17.7
～8時間	14	10	9	11	19	12	13	13	11	11	12	18	153	12.8
8時間～	3	7	4	4	1	2	6	3	2	3	0	2	37	3.1
延べ件数	136	140	125	139	137	121	134	135	135	133	123	155	1613	134
延べ時間	426.0	407.5	350.0	440.0	456.5	352.0	433.5	407.5	394.0	405.5	336.0	491.5	4900.0	408.3
平均時間	3.1	2.9	2.8	3.2	3.3	2.9	3.2	3.0	2.9	3.0	2.7	3.2		3.0
未就学児	7	8	5	7	4	8	6	7	6	4	7	8	77	6.4
18歳以下	31	29	22	30	31	23	24	22	26	27	23	22	310	25.8
19歳以上	45	45	41	49	36	38	44	49	47	41	39	50	524	43.7
デイ利用者	17	17	16	21	14	15	16	20	19	17	15	15	202	16.8
戸塚区	47	48	42	54	44	40	52	45	46	43	41	52	554	46.2
保土ヶ谷区	10	7	7	8	8	9	7	7	7	7	7	6	90	7.5
泉区	6	5	4	5	3	5	3	5	6	3	5	5	55	4.6
栄区	2	4	3	3	3	3	2	3	3	2	4	4	36	3.0
港南区	14	13	7	12	7	7	7	10	10	10	9	8	114	9.5
その他区	4	5	5	3	6	5	3	7	7	7	3	5	60	5.0
市外	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.2
依頼数	184	177	162	170	209	154	174	177	170	169	162	203	2111	175.9
キャンセル数	31	28	26	20	50	21	17	15	13	19	19	28	287	23.9
お断り数	17	9	11	11	22	12	23	27	22	17	21	20	212	17.7

【平成 27 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
～2時間	65	64	85	77	59	67	77	71	66	62	67	77	837	69.8
～4時間	49	42	36	43	45	34	38	40	42	29	39	34	471	39.3
～6時間	15	22	16	25	31	16	16	11	22	19	14	23	230	19.2
～8時間	14	12	12	15	23	9	15	19	13	12	16	13	173	14.4
8時間～	4	3	3	1	5	4	9	4	1	2	4	3	43	3.6
延べ件数	147	143	152	161	163	130	155	145	144	124	140	150	1754	146
延べ時間	461.0	452.0	431.0	496.0	601.5	380.0	503.0	457.0	454.0	372.5	434.5	455.0	5497.5	458.1
平均時間	3.1	3.2	2.8	3.1	3.7	2.9	3.2	3.2	3.2	3.0	3.1	3.0		3.1
未就学児	10	7	13	4	7	12	13	6	10	7	15	6	110	9.2
18歳以下	37	32	33	38	41	28	33	34	36	31	32	41	416	34.7
19歳以上	38	42	40	43	41	40	42	42	39	30	40	35	472	39.3
デイ利用者	15	18	15	20	19	18	21	19	19	13	18	13	208	17.3
戸塚区	52	44	53	53	57	45	56	52	52	43	56	48	611	50.9
保土ヶ谷区	11	14	13	11	9	15	12	9	11	7	6	10	128	10.7
泉区	5	3	3	5	3	4	3	5	3	2	5	5	46	3.8
栄区	3	4	3	3	5	2	3	3	4	2	4	2	38	3.2
港南区	7	11	11	8	9	8	9	8	9	6	9	12	107	8.9
その他区	7	4	3	5	5	6	3	4	5	8	6	5	61	5.1
市外	0	1	0	0	1	0	2	1	1	0	1	0	7	0.6
依頼数	181	175	183	198	201	169	200	171	171	155	179	213	2196	183.0
キャンセル数	20	19	14	15	12	13	18	20	16	16	18	32	213	17.8
お断り数	14	13	17	22	26	26	27	6	10	15	21	31	228	19.0

2) ショートステイ

平成 27 年度と比べて、延べ泊数が 7 泊 (1.3%) 増加しました。今年度新規登録をされた 19 歳以上の利用者については、定期的な利用が定着する傾向が見られました。また、グループホーム入居に向けた練習としての依頼が多くあり、そのうちの 3 名の利用者が 2 月以降、ホープ川上に入居しました。

依頼数はほぼ変わりありませんでした。延べ泊数はやや上回りましたが、キャンセル数は増加しました。特別に新しいキャンセル理由はなく、体調不良や予定変更、代理の保護者が見つかったことによるキャンセルが目立ちました。

同様に、お断り数も増加しました。利用希望曜日に偏りが見られるため、物理的な居室不足が発生したり、職員配置が困難となりました。また、利用者同士の相性や、障害特性が多様化したことによる支援ポイントの相違が目立つようになったことが要因として考えられます。

【平成 28 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
1泊	30	33	31	36	33	29	29	38	33	30	28	42	392	32.7
2泊	2	2	0	3	2	2	3	1	4	3	3	3	28	2.3
2連泊	2	2	3	4	2	3	2	3	4	5	3	2	35	2.9
3泊	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	0.3
3連泊	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	0.3
4連泊	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1
延べ泊数	41	41	40	50	44	39	44	49	49	49	40	58	544	45.3
18歳以下	6	5	4	10	7	6	3	5	3	7	3	9	68	5.7
19歳以上	29	32	31	33	31	28	32	37	37	32	29	37	388	32.3
デイ利用者	11	12	12	15	16	13	12	13	17	14	10	13	158	13.2
戸塚区	19	20	18	25	21	20	22	23	26	26	17	33	270	22.5
保土ヶ谷区	5	5	5	7	5	4	6	6	4	3	4	4	58	4.8
泉区	3	0	2	3	1	1	1	2	2	0	2	0	17	1.4
栄区	1	3	2	2	4	3	2	3	2	2	4	3	31	2.6
港南区	4	6	5	3	4	2	2	3	3	2	3	4	41	3.4
その他区	3	3	3	3	3	4	2	5	3	6	2	2	39	3.3
市外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
依頼数	54	45	50	68	65	48	60	68	62	53	54	70	697	58.1
キャンセル数	7	3	4	9	10	4	8	4	9	1	2	8	69	5.8
お断り数	5	1	6	9	6	5	8	15	4	3	12	4	78	6.5

【平成 27 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
1泊	27	23	26	33	26	27	31	35	32	19	24	29	332	27.7
2泊	1	6	4	5	5	4	4	4	3	5	6	5	52	4.3
2連泊	5	2	6	3	6	1	3	2	6	1	5	1	41	3.4
3泊	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4	0.3
3連泊	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
4連泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
延べ泊数	42	39	46	52	51	37	45	50	53	31	46	45	537	44.8
18歳以下	7	7	6	8	10	5	8	8	10	4	9	8	90	7.5
19歳以上	26	24	29	34	28	27	30	34	32	21	25	28	338	28.2
デイ利用者	12	13	11	15	13	12	14	16	15	11	11	10	153	12.8
戸塚区	16	18	20	29	25	18	23	25	24	14	19	19	250	20.8
保土ヶ谷区	3	4	3	3	4	4	4	4	5	4	5	5	48	4.0
泉区	2	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	3	10	0.8
栄区	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	33	2.8
港南区	2	4	5	3	3	2	4	6	5	2	2	3	41	3.4
その他区	8	2	4	3	3	4	3	1	4	3	5	4	44	3.7
市外	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0.2
依頼数	48	48	57	61	67	43	57	64	62	48	55	49	659	54.9
キャンセル数	2	5	3	3	9	4	8	9	2	10	4	4	63	5.3
お断り数	4	4	8	6	7	2	4	5	7	7	5	4	63	5.3

(2) 登録者数の動向と傾向

新規登録者数は、43名でした。現在の総登録者数は911名となりました。年齢別内訳と居住区別内訳は下記の通りです。

戸塚地域療育センターで一時ケアについてのアナウンスがあるようで、保護者が数名で来所・登録をし、その保護者からの口コミで登録をする方がいました。また、通学先や通所先から基幹相談支援センターを通しての緊急登録がありました。

全体的に年間登録者数は減少傾向にあり、特に未就学児含め18歳以下の登録者数が減少し、19歳以上の登録者数がやや増加しました。

【平成28年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
未就学児	3	0	1	1	3	1	2	1	1	1	2	4	20
18歳以下	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	1	2	9
19歳以上	1	0	1	2	0	2	2	2	2	1	1	0	14
延べ人数	5	1	2	4	3	4	5	3	3	3	4	6	43
戸塚区	1	1	2	4	3	3	4	2	1	1	2	3	27
保土ヶ谷区	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4
泉区	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
栄区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
港南区	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
南区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
旭区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
磯子区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

【平成27年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
未就学児	0	3	5	2	3	3	3	1	1	1	4	2	28
18歳以下	3	1	1	2	2	1	0	2	2	0	0	1	15
19歳以上	2	0	0	1	1	2	0	0	1	2	0	1	10
延べ人数	5	4	6	5	6	6	3	3	4	3	4	4	53
戸塚区	3	3	4	4	4	4	2	1	2	1	3	3	34
保土ヶ谷区	0	1	1	0	2	2	1	1	1	0	0	0	9
泉区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4
栄区	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
港南区	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
南区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
金沢区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

(3) 支援内容

“遊び”を通して、利用者が持っている能力を最大限に発揮し、それを生活の場面に般化することができるよう支援しました。そのために、登録面談の際に、通学先や通所先での利用者の取り組みや課題を伺ったり、ご利用の都度、現在、困っていることや伸ばしたい部分をご家族から教えていただくことで、ニーズに直結した支援と、利用者の成長に合わせた支援を行うことができました。

医療的ケアの必要な方の受け入れについては、平成 27 年度に引き続き日中活動部と連携し、看護師の協力体制を整えた上で対応しました。受け入れ時間や曜日に制限があるためか、利用される方は少数でした。また、別室（2 階）での受け入れも引き続き行いました。利用者同士の相性などから安全面を考慮し、別室では主に、未就学児や肢体不自由児・者の受け入れを行いました。

ショートステイにおいては、良眠の確保を第一に、ADL 面の支援や利用者のニーズに合わせて、生活面の支援（食器洗い、寝具の準備等）を行いました。

（４）事故

事故 13 件が発生しました。

以下、事故の中から、抜粋して掲載しています。

【事例】

- ・一時ケア利用中、帰宅を訴えながら自傷を始めた利用者が、フローリングの床においてこを打ち付け、額中央上部（生え際）から出血したが、すぐに傷口を確認することができず、保護者に怪我の詳細を伝えることができなかった。
→本人が落ち着くのを待ってから対応したため、正確な出血箇所の把握および、どのように出血したのか（擦った、切った、滲み出た等）を確認することができませんでした。今後は、出血箇所の把握および、手当を最優先します。
- ・ショートステイ利用中（入浴介助時）、利用者をベッドに寝かせた状態で職員がベッドから離れたところ、自分で起き上がろうとした利用者がベッドから転落した。
→間接業務や雑務等、今行う必要のないことは行わず、直接支援を優先することを改めて意識し、支援にあたります。今行う必要がある場合は、転落防止の配慮を行います。

（５）ヒヤリ・ハット

ヒヤリ・ハット 26 件（支援中 7 件、※その他 19 件）が発生しました（※その他：受付連絡ミス、施錠忘れ等）。

以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載しています。

【事例】

- ・翌月分の依頼が見当たらなかったので連絡をしたところ、一時ケア利用時のお迎えの際に、母が事務所にいた職員に希望日を書いたメモを渡したとのことだった。
→メモは紛失する可能性が高いため、必ず受付表に記録を書き写すことを、職員会議にて周知しました。
- ・ショートステイ利用者が持参した歯磨きセットの中に、歯磨き粉ではなくステロイド入りの軟膏が入っており、それで歯を磨こうとしていた。
→自立度の高い利用者に関しても、すべてを本人任せにしてしまうのではなく、細かい配慮を行います。

(6) 部門内連携

平成 27 年度に引き続き月に一度の生活支援部会議を開催し、理事長と施設長も継続して参加しました。内容としては、実績報告や事故/ヒヤリ・ハット報告のほか、新規登録者についての情報共有、既登録者についての現況報告を行いました。なお、この会議で出た提案事項等は、職員会議において、全職員に情報共有しました。また、平成 26 年度に作成した「TC・SS 登録面談者 幼児リスト」を引き続き活用し、おもちゃ文庫と併用利用される方の情報について、職員間で共有しました。

(7) 部門間連携

直接支援に関しては、日中活動部にも協力してもらい、対応しました。発作や食物アレルギー等、特別な配慮が必要な利用者については、受け入れの前に、申し送りを行いました。

平成 27 年度に引き続き相談支援部経由の登録がありました。相談支援部で関わっている既登録者については、適宜、連携をとる事により、利用者の生活状況や通学・通所状況等も捉えるように努めました。

一方で、グループホームやヘルパー事業所、移送サービスや区内の通所施設を探している登録者に関しては、相談支援部を紹介しました。また、利用者のケア会議で得た情報の共有を行いました。

なお、緊急利用の受け入れの際には、日中活動部だけではなく、相談支援部にも協力を依頼し、受け入れ体制を整えるように努めました。

(8) その他

7 月に 2 件、戸塚警察署より、受け入れの依頼がありました。どちらも、警察署で保護している人を泊まらせてほしいという依頼でした。1 件は、戸塚警察署から戸塚区生活支援センターの対応に流れたあと、戸塚区生活支援センターおよび区役所と連携を取った上で、受け入れを実施しました。基幹相談支援センターができたことにより、今後、このようなケースも増えていく可能性があり、課題として捉えていく必要があることがわかりました。同様に、学校や通所先から基幹相談支援センターを通しての緊急登録がありました。登録面談をしないで受け入れを行うケースも増えてきました。

平成 27 年度に引き続き利用者の放課後の過ごし方や取り組みについて学ぶため、戸塚区地域自立支援協議会の児童分科会において行われた、放課後等児童デイサービス事業所との意見交換会に参加しました。各事業所の特色や課題などを知ることができました。また、児童分科会の傘下にできた“重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループ”に参加し、東俣野特別支援学校を訪問し、当事者ご家族から、困っていることや要望を伺いました。また、登録の際にご家族に記入していただく、フェイスシートの内容を新しくしたものを今年度初めに全登録者に送付・配布し、回収を行いました。この登録用紙をきっかけに、初利用や再利用、再面談を希望される方がいました。

(9) 研修

職員としての資質向上、能力・技術・知識（ケアマネジメント、コーディネート、カウンセリング等）の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No	開催月	研修名	場所	参加者
1	6月	全国知的障害関連施設長等会議	パシフィコ横浜	森川
2	10月	自閉症スペクトラムのある子のレジリエンスを育てる	ウィリング横浜	森川
3	11月	発達障害ってナンだ？	府中市総合体育館	橋本

3. 相談支援事業

(1) 基幹相談支援センター

1) 総合的・専門的な相談支援の実施

基幹相談支援センターとして1年が経過しました。基幹相談支援センターとして新たに担う業務について検討しながら、個別ケースへの対応を行っています。相談件数やケア会議の回数など平成27年度より大幅に増加しました。

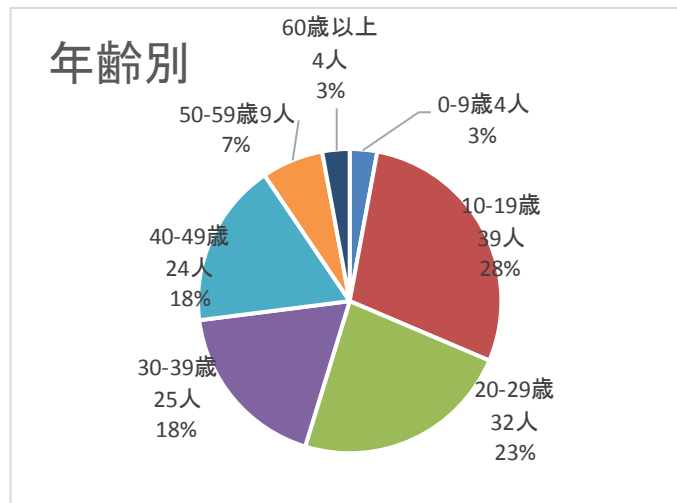
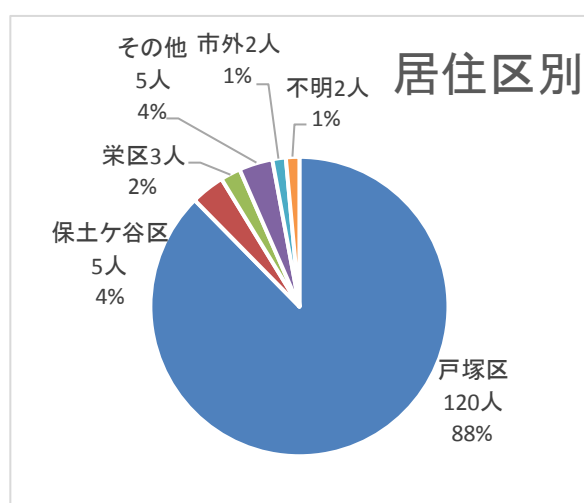
〈相談件数〉 ()内は、平成27年度の実績

年	平成28年									平成29年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	68	103	98	91	98	54	51	56	47	75	74	62
累計	512 (310)						365 (339)					
	877 (649)											

〈ケア会議 開催状況〉 ()内は、平成27年度の実績

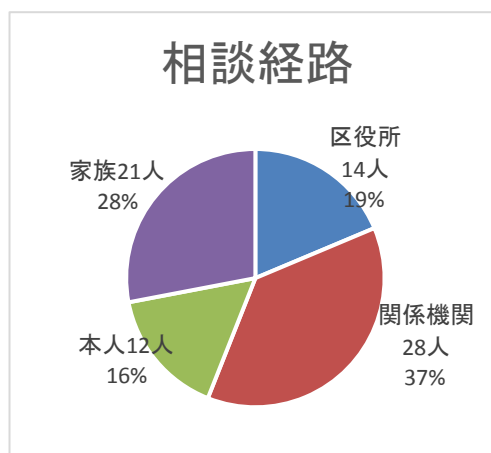
年	平成28年									平成29年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開催数	1	3	7	4	5	3	8	4	5	6	3	7
累計	23 (19)						33 (18)					
	56 (37)											

今年度の相談を受けた実人数は137名で、平成27年度より11名の増加です。居住区別では区内の割合が平成27年度より大幅に上昇しており、基幹相談支援センターの整備に伴い、それぞれのエリア内での対応が増えている事が伺えます。年齢別の割合に大きな変化は見られませんでした。



実人数 137 名のうち、今年度に新規で相談を受けた方は 75 名で、平成 27 年度より 17 名増加しました。

相談経路については、全体的に大きな変化はみられませんが、精神障害の方からの相談は増加傾向となっています。



2) 地域の相談支援体制の強化の取り組み

上半期は戸塚区内 5 つの指定特定相談支援事業所を訪問して聞き取りを行いました。今年度中に新たに指定をとった事業所については、計画作成支援や面談同行、担当者会議への参加など具体的な支援も行っています。また、「計画相談連絡会」を開催し、それぞれの事業所の状況や感じている課題などについての共有と来年度の連絡会開催について検討しました。

3) 地域移行・地域定着の促進の取り組み

戸塚区内の精神科病院である舞岡病院の見学や、栄区生活支援センターが行っている舞岡病院での「横浜市精神障害者地域移行・地域定着支援事業（退院サポート事業）」も見学させていただき、精神障害者の社会資源や退院支援について学びました。さらに、栄区生活支援センターが退院支援として関わっている個別のケースについても同行させていただく事で、より具体的に知る機会となっています。

4) 権利擁護・虐待の防止

基幹相談支援センター連絡会での担当者会議への参加の他、戸塚区成年後見サポートネットにも参加しました。サポートネットでは弁護士や司法書士など専門職によるミニ講座の他、地域包括（地域ケアプラザ）の社会福祉士など地域の支援者も入った事例検討を行いました。

5) その他地域の状況に応じた独自の取り組み

戸塚区地域自立支援協議会の地域を創る分科会にて、アウトリーチ的な活動を行う「出張相談会」の開催について検討し、来年度試行的に行う事となりました。

(2) 計画相談支援

平成 27 年度と変わらず 10 名の契約者数ですが、年度途中で入院に伴い、計画相談を一時休止とさせていただいている方がおり、実質は 9 名になっています。新規のご依頼を受けることは依然として難しい状況です。

以下の表は年間の回数です。ご本人の状況変化等により、モニタリング月以外での対応が必要になった方も多く、年間を通して動きがありました。

電話	訪問	来所	その他	合計
123	35	13	7	178

(3) 関係機関・関係施設との連携・協力

1) コーディネーター業務

教育機関からの施設見学や施設研修（社会体験）の依頼に対応しています。

年	月	参加者
平成 28 年	6月	進路学習：保土ヶ谷養護学校 生徒・教員
	7月	施設見学：川上北小学校 児童（4年生×4クラス）、担任来所
		訪問：川上北小学校 4年生 利用者訪問
		施設見学：横浜市総合リハビリテーションセンター 職員見学
		教員実習：保土ヶ谷養護学校教員
	8月	施設見学：戸塚区役所 社会福祉士実習生
	9月	施設見学：鎌倉養護学校 教員
	10月	施設見学：保土ヶ谷養護学校 保護者
		進路学習：本郷特別支援学校 生徒・教員
	12月	施設見学：エフエム戸塚 相浦さん、とつかわかば職員・利用者
↑	1月	進路学習：本郷特別支援学校 生徒・教員

平成 29 年

川上北小学校 4 年生の施設見学も今年度で 4 回目となりました。昨年同様、地域活動ホームの紹介と、障害のある方の生活の一端としてのグループホームでの生活について、利用者インタビュー動画も交えた紹介をしました。年度当初の 5 月に学校側との打ち合わせを行った際に「見学だけではなく、交流なども検討したい」とのお話がありました。具体的な交流としてどのような形がとれるのか、人数や内容については日中活動部とも協議を行い、計 20 名の生徒さんが来所され、活動を通して利用者との交流を行いました。

近くの施設について知る、障害のある方について知るという事に加え、体験という活動を通して、より具体的に、身近に感じてもらう事ができたのではないかと思います。

2) 定例会議＜外部機関・団体＞

定例カンファレンスでは、ケースについての共有の他、戸塚区全体の状況についても検討しています。

No.	会議名	参加者	開催頻度
1	戸塚区定例カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区役所 高齢障害支援課 障害担当及び精神保健福祉担当 ・戸塚区生活支援センター 	毎月1回
2	基幹相談支援センター連絡会	基幹相談支援センター 主任相談員	毎月1回
3	地域交流コーディネーター連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区内の地域ケアプラザ コーディネーター ・戸塚区社会福祉協議会 ・戸塚区役所 こども家庭支援課、業務企画課 	毎月1回
4	発達障害特定相談 ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援センター ・戸塚区生活支援センター ・戸塚就労支援センター ・戸塚区役所 高齢障害支援課 	3ヶ月に 1回

この他に「ケアマネット戸塚」（区内ケアマネージャーの連絡会議）や「主任ケアマネ連絡会」に参加し、基幹相談支援センターとしての挨拶と業務説明をさせていただく周知活動も行いました。

（４）相談支援部内、部門間の連携

部内の連携としては、相談支援部の会議を毎月1回開催しました。困難ケースの相談事案については、施設長や他の相談員からのアドバイスを受けながら支援を進めました。

部門間の連携では、実習生の受け入れ、施設見学、デイサービス利用契約などについて、日中活動部と連携して進めました。緊急に入る相談では、一時ケア・ショートステイに繋ぐ必要のあるケースも多く、生活支援部との連携や協力を行いました。

(5) 戸塚区地域自立支援協議会の運営

戸塚区地域自立支援協議会が立ち上がり、8年目を迎えました。

平成27年度より引き続き担当者会の他に4つの分科会「リスクを考える」・「地域啓発」・「地域を創る」・「児童」、2つの連絡会「グループホーム連絡会」・「日中情報交換会」で構成されています。

今年度の担当者会は、年間テーマを「自立支援協議会について改めて考える」として、障害分野ごとに区内の事業所からの発表や意見交換を行いました。担当者会への参加機関が増え、会としての凝集性を保つ事が難しくなっている事、分科会の活動が活発化している事などから、担当者会・分科会の開催頻度や内容について事務局で検討し、来年度より変更が予定されています。

分科会と連絡会の活動には、相談支援部以外の職員も参加しました。

分科会	参加者	活動概要
リスクを考える	岩崎平	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネットプロジェクト横浜の出前講座を戸塚区版にアレンジ ・柏尾地区、舞岡地区での出前講座開催
地域啓発	荒二見野口	<ul style="list-style-type: none"> ・「戸塚区障がい者美術館計画 みんなちがっていいんだよ！」を実施 ・例年とは趣向を変え、イオン東戸塚3階フロアの各店にはがきサイズの絵画等、約30点を展示
地域を創る	若杉佐山林	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の抽出を目的に、各事業所からの事例発表 ・事例検討会に向けた準備及び提供事例の検討
児童	荒森川	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス事業所との意見交換 ・軽度知的障害児の進路について（個別支援級教員との連携） ・重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループ実施 ・とことこフェスタへの参加（パネル展示等）

連絡会	参加者	活動概要
グループホーム	三野	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討について学ぶ ・当事者活動の開催「ハロウィンパーティー」 ・業務日誌や個人記録のひな型を持ち寄り、意見交換
日中情報交換会	荒佐山二木	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校と通所系事業所の情報共有 ・移動情報センターについての学習会 ・施設見学会

(6) 学習・研修参加

相談員としての資質向上、能力・技術・知識（ケアマネジメント、コーディネート、カウンセリング等）の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No	開催月	研修名	場所	参加者
1	5月	介護技術研修（基本編）	社会福祉会館	林
2		精神保健福祉基礎研修	開港記念会館	荒
3		後見的支援研修	横浜ラポール	佐山 松木
4		障害福祉サービス及び関連事業の概要に関する説明会	健康福祉総合センター	林
5		第1回障害福祉支援者研修	横浜市総合リハビリテーションセンター	林
6		精神障害のある方への相談支援に関する研修	開港記念会館	若杉・荒 松木・林
7	6月	相談技術研修	神奈川県社会福祉会館	荒
8		学習会『思春期の子どもと親子関係～性について～』	原宿ケアプラザ	若杉・荒
9		自殺対策基礎研修	開港記念会館	佐山・荒
10		精神保健福祉基礎研修～障害理解編～	開港記念会館	荒
11	7月	成年後見制度基礎研修	横浜市健康福祉総合センター	松木
12		聴覚障害・視覚障害の医学的理解及び眼鏡・補聴器について	横浜市総合リハビリテーションセンター	荒
13	8月	依存症対応研修	横浜市開港記念会館	若杉
14	10月	高次脳機能障害支援者向け研修	横浜市総合リハビリテーションセンター	荒
15		生活支援センター発表会	横浜市総合保健医療センター	中瀬・荒
16	12月	障害福祉シンポジウム『とつかで暮らす』	戸塚区公会堂	中瀬・荒・林
17		医療・保健・衛生等研修会 「広汎性発達障害のある方への かかわり」	横浜ラポール	林
18	1月	医療・保健・衛生等研修会 「精神障害のある方へのかかわり」	健康福祉総合センター	林
19		医療・保健・衛生等研修会 「高齢期の知的障害のある方への かかわり」	健康福祉総合センター	林
20	2月	生活保護制度研修	ウィリング横浜	林
21		医療・保健・衛生等研修 「障害のある方への口腔ケア・ 摂食嚥下について」	健康福祉総合センター	林
22		基幹相談支援センター向け研修	開港記念会館	若杉・荒
23		ごみ屋敷対策研修	関内ホール	林

4. おもちゃ文庫事業

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(上半期)
稼働日数	20	19	22	20	20	20	121
子ども	333	231	342	384	357	331	1978
親	297	223	321	336	301	308	1786
合計(月)	630	454	663	720	658	639	3764
平成27年度	601	534	576	676	541	491	3419

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(下半期)	合計(年度)
稼働日数	20	20	19	19	20	22	120	241
子ども	377	270	272	284	351	332	1886	3864
親	317	233	237	242	310	270	1609	3395
合計(月)	694	503	509	526	661	602	3495	7259
平成27年度	613	508	549	647	751	710	3778	7197

おもちゃ文庫は開室から10年を経て、今年度は改めて地域の子どもと保護者の「遊び場」として定着していることを感じました。

最近の傾向として、1歳児、2歳児の来所者が多いのですが、3歳児～6歳児は殆どがおもちゃ文庫を繰り返し利用されているリピーターの方です。

リピーターの方は、子どもと大人が共に楽しく「遊び」、「交流」することで得られるワクワク感や心地よい雰囲気を作ってくださいる大切な存在で、おもちゃ文庫はいつも安心して利用できる「遊び場」として地域に受け入れられています。

ここ数年子どもを取り巻く環境の変化は著しく、保育園希望者が増え待機児童の問題は、おもちゃ文庫を利用される親子さんの関心事でもあるのですが、子どもを産み育てより良い成長を願う親の思いは常にあるものです。

おもちゃ文庫では、第一子、兄弟児と個々の実情はさまざまですが、異年齢の子どもが出会い、遊具の貸し借りや順番に待つことを学べる場で、自己主張の姿や、相手とのふれ合いがより楽しい遊びにつながる等、よい経験ができる場所になっています。また、育児中の保護者は家では忙しく、子どもと遊ぶ時間が少ないと感じているようですが、おもちゃ文庫では子どもと共に遊び、スタッフを交えた周囲との適切なコミュニケーションを通して、子どもの成長を確認したり、心のゆとりを取り戻すきっかけになったりしています。

現在ネット社会ではありますが、スタッフがその場に出向き、得た情報・資料を共有しながら、来所される方へ必要な情報を伝えています。

(2) 課題・検討事項

- ・地域の特徴として近隣に遊び場が増え、おもちゃ文庫を利用される方の分散傾向や低年齢化があり、以前よりリピーターの方の定着には時間がかかると思いますが、安心安全の環境を整え、子どもと保護者の楽しい遊び場であるよう心がけたいと思います。
- ・遊びを媒介としたコミュニケーションを通して、親育ちの支援や世代交流支援の機会を作りたいと思います。

(3) 遊具、絵本の整備

- ・新しい遊具「おべんとうばこ」「三丁目交差点」「モビレ」等、木製の遊具が入りました。色彩が美しく、遊具に触れながら手も目も動かし、心豊かに遊べる遊具を選んでいきます。
- ・絵本は季節感や利用されている方の状況に合わせて入れ替え、特に選び方にはよい評価をいただいています。

(4) 親子製作

季節の行事を大切に頂けるように、毎月ミニ工作を実施しました。父の日、七夕笹飾り、クリスマスカード、節分、ひな祭り等、好評いただきました。

(5) その他

地域交流事業として、おもちゃ文庫を利用されている方を対象に「工作とお話の会」を年6回実施しました。安全に配慮して、参加された皆さんが楽しめるよう工夫しました。

5. 余暇活動支援事業

計 31 回の余暇活動を実施しました。小学生対象が 7 回、中高生対象が 5 回、小中高生対象が 2 回、成人対象が 17 回でした。

平成 27 年度に引き続き小学生・中高生対象の活動は長期休み（夏休み・冬休み）を中心に開催しました。成人対象の活動は、平日も含めサークル的な活動を中心に開催しました。天候に左右される活動は代替の活動を用意しましたが、今年度は予定通り開催することができました。食事に関する活動やイベント関係（クリスマス等）の活動に応募する方が多い結果となりました。また、応募数の多い活動は引き続き募集人数を増やし、多くの方が参加できるよう配慮しました。応募数の少ない活動は開催数を減らしました。

小学生の応募が年々減っており、「屋上プール」「ランドマークタワーに行こう」は定員割れとなりました。児童デイサービスを利用する方が増えたことで土日の過ごし方が変わってきている可能性があり、小学生の活動に関しては日程や内容等、再検討する必要があることが分かりました。

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
くっきんぐぴかり（前期） （計 4 回）	6 月 10 日	成人	38 名	5 名	5 名	0 名	4 名
	7 月 8 日				5 名	0 名	4 名
	9 月 9 日				5 名	0 名	3 名
	10 月 14 日				4 名	1 名	3 名
テラスで晩ごはん （計 4 回）	7 月 21 日	中高生	22 名	20 名	5 名	0 名	2 名
	7 月 28 日				4 名	1 名	2 名
	8 月 3 日				4 名	1 名	2 名
	8 月 17 日				4 名	1 名	2 名
屋上プール （計 6 回）	7 月 30 日 AM	小学生	23 名	23 名	4 名	1 名	0 名
	7 月 30 日 PM				4 名	0 名	0 名
	8 月 6 日 AM				2 名	2 名	0 名
	8 月 6 日 PM				3 名	0 名	0 名
	8 月 7 日 AM				3 名	0 名	0 名
	8 月 7 日 PM				2 名	1 名	0 名
みんなでボウリング	9 月 10 日	成人	17 名	5 名	5 名	0 名	0 名
水族館へ行こう	10 月 8 日	中高生	13 名	5 名	5 名	0 名	0 名
サタデーぴかり（前期） （計 3 回）	10 月 29 日	成人	21 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	11 月 26 日				5 名	0 名	0 名
	12 月 17 日				4 名	1 名	0 名
くっきんぐぴかり（後半） （計 4 回）	11 月 11 日	成人	20 名	5 名	5 名	0 名	3 名
	12 月 9 日				5 名	0 名	3 名
	1 月 13 日				5 名	0 名	2 名
	2 月 10 日				5 名	0 名	3 名
クリスマス会 （計 2 回）	12 月 23 日	小中高生	33 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	12 月 23 日	成人	23 名	5 名	5 名	0 名	0 名

新年会 (計2回)	1月7日	小中高生	13名	5名	5名	0名	0名
	1月7日	成人	31名	5名	5名	0名	0名
サタデーぴかり (後半) (計3回)	1月28日	成人	14名	5名	5名	0名	0名
	2月25日				4名	1名	0名
	3月19日				3名	2名	0名
ランドマークに行こう	2月18日	小学生	5名	5名	2名	3名	0名

6. 地域交流事業

(1) 貸室利用実績

【平成28年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	28	28	26	30	16	30	27	26	16	28	30	20	305
利用人数	294	242	223	283	177	280	289	265	163	268	288	188	2960

【平成27年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	29	28	23	24	19	30	30	30	26	24	28	20	311
利用人数	279	296	238	234	161	271	312	295	238	217	291	179	3011

(2) 体験参加型イベント

おもちゃ文庫をご利用の親子を対象に「工作とお話しの会」を6回、開催しました。集団は苦手、という親子も複数回参加することで、苦手意識から楽しみに変わっていくことが感じられました。

開催月	イベント内容	参加
5月	スクラップブックキング	6組
6月	Father's Day	5組
7月	七夕を楽しもう	6組
10月	親子でハロウィン	6組
12月	親子でクリスマス	5組
2月	大切な人へありがとう	6組

(3) 他施設・機関主催行事への参加

近隣施設のお祭りや地域のイベントに参加しました。

開催月	施設・参加行事
6月	平戸ケアプラザ(自主製品・パン販売)
10月	戸塚区ふれあい文化祭(作品展示)
11月	戸塚ふれあい区民まつり(自主製品・パン販売)
2月	戸塚区障がい者美術館計画(作品展示)

(4) ひかり主催行事

8月に「ぴっかり夏祭り」、12月に「冬フェス」を開催しました。

今年度の「ぴっかり夏祭り」は、雨天のため規模を縮小しての開催でしたが沢山の方にご来場いただきました。

昨年同様、給食業者に依頼せず、職員による食品の調理・販売を行いました。事前に地域のボランティア団体に要請し、当日の準備等をお願いできました。

「冬フェス」もひかりで開催される冬の音楽イベントとして定着してきました。今年度は金管アンサンブルや車いすのシンガーソングライターに出演していただき、プログラムの刷新をはかりました。

多くの方に楽しんでいただけたことが、アンケート等からうかがえました。

7. 各委員会

(1) 広報委員会

2回広報誌を発行しました(4月・10月)。内容は、夏祭り、宿泊旅行などのイベントの報告や日中活動の紹介、地域活動支援センター ラフォーレさくらの記事などを掲載しました。また、夏祭り、冬フェスのポスターやハガキの制作を行い、ホームページも連動する形で、イベントの告知を行いました。

リニューアルしたホームページは、グループホーム入居者の募集やボランティア募集など、情報発信のツールとして稼働し始めました。

(2) 保健・衛生委員会

職員・利用者の健康診断を実施しました。宿直業務のある職員については、年2回の健康診断を行いました。

夏季には熱中症予防対策として、送迎車内に経口補水液とスポーツドリンクを常備しました。また、冬季には職員・デイサービス利用者を対象に、インフルエンザの予防接種を実施すると共に、11月から3月にかけて検温を行う事で館内の感染予防に努めました。

その他には、清掃業務を委託している業者に、月1回のペースで施設の階段や床・ベランダ周りの排水口等を清掃していただきました。次回の清掃箇所については、作業終了後に確認しています。また、備蓄薬に関しては4月の初めに入れ替えを実施しました。

委員会の取り組みとして新たに、移動・移乗介助の研修会を3月に開催しました。利用者・職員の健康と安全を保つために、専門的知識の習得および介助技術の向上を図りました。

(3) リスクマネジメント委員会

主に災害時の対応をより円滑にする為、フロア毎に責任者を配置して対応にあたる様に変更しました。避難訓練に関しては、9月と3月に実施しました。

9月の避難訓練では、地震を想定した訓練を行い、館内にいる人の安全確認の方法や避難時に対応すべき点を確認しながらの訓練を行いました。3月は消防署員立会いの元、火災を想定した避難訓練を行いました。夜間時避難訓練では、ショートステイ中に地震と火災が起こった事を想定し、今年度入職した職員2名に向けた訓練を行いました。以上に加えて、全職員対象に事務所にある複合火災受信機の使用方や作動時の対応についての研修を11月に行い、3月に消防署の署長によるAED使用方法についての研修を行いました。

(4) 給食委員会

2 か月毎に委員会を開催し、利用者の食事に関する情報交換、内容の充実、行事の際の食事内容等について検討しました。

平成 27 年度に引き続き今年度も給食業者の調理師が変更となり、しばらくは食形態や食事提供方法等がスムーズにいかない事もありましたが、その都度情報交換・共有する事で一つずつ改善されました。また、全職員対象に「給食アンケート」を実施し、多くの意見や要望が挙がりました。その中から見直せる点は改善してもらい、結果としてカロリーや品数などもより適した数量となる等改善されました。

2 か月毎に募集するリクエストメニューは継続し、利用者の希望をメニューに反映する事ができました。

Ⅱ. ラフォーレさくら

はじめに

今年度は、体験教室や防災訓練、地区主催行事に参加するなど地域交流や障害理解を深める活動を積極的に行ってきました。また、3月より新卒2名が加わり、年齢構成が10代～70代とさらに幅広くなりました。日常的な健康面への配慮が必要な中、高齢化による体の衰えや発作の頻度も多くなる利用者が目立ってきました。

他の区から自力で通所している方が大半を占めていますので送迎対応などを含め関係機関との連携や情報共有するとともに、助言や協力を得ながら、進めてきた1年となりました。ますます高齢化していく利用者の安全面を踏まえると、暮らしている地区の施設へ移行を検討せざるを得ないケースも今後の課題としてあがっています。

1. 利用実績（定員 20名 在籍人数 19名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	20	19	22	20	19	20	20	21	19	19	22	22	243
延利用者数	234	205	254	202	173	190	206	207	212	187	209	215	2494
利用人数/日	11.7	10.7	11.5	10.1	9.1	9.5	10.3	9.8	11.1	9.8	9.5	9.7	—
送迎利用者数	41	42	52	50	54	52	52	41	39	45	45	39	552

今年度は、男性8名、女性9名の17名スタートでしたが、3月より男性2名が加わり、19名の在籍となりました。体調不良により救急対応が必要な方、精神不安定のため入院、骨折などの怪我をされる利用者がいました。

通所できずにいた利用者が送迎をする事により利用日数も増え積極的に活動に参加する姿が見受けられました。家庭を含めた支援が必要な利用者もおり家庭訪問や定期的に電話連絡をして現状の把握や関係機関との情報共有など連携をしながら支援を行いました。医療、行政とカンファレンスを行い、意見交換をするなど体調管理を含め通所への道を検討してきました。

地域の方の経験を生かした体験教室を開催し、講師として、また交流の場として積極的にラフォーレさくらへ足を運んでもらう良い機会になりました。5月より南区総合庁舎1階にオープンしました「ふれあいコーヒーショップにこにこみなみ」へも社会参加の場として月2回の活動を行っていますが、地域の方にもボランティアとして一緒に参加していただいています。

2. 日中活動

(1) 作業について

昨年と同様、新鮮卵の販売、自動車部品や消しゴムの袋詰めなどの下請け作業機織りや縫製、編み物などの自主製品販売を行ってきました。

自動車部品の下請け作業に新たに違う工程の部品が入り、積極的に参加する利用者や苦手意識のあった作業も自ら練習し克服する姿が見受けられました。

工賃収入の減少に対応しながらも、年度末には賞与を支給することができました。

下請け作業など継続的な受注を受けて安定した収入を得られるよう、日々の業務を丁寧大切に今後も行っていきます。

自主製品の開発や制作を行うため、障害者支援センターより助成金を受けました。その助成金で、利用者の個性あふれるタイルアート作品を新たに商品として加えることができました。また、ラフォーレさくら側の大岡川沿いのプロムナードが再整備のため、老木の桜を伐採し、その木を活用するプロジェクトが行われ参加しました。地域の方々が集めて下さっているドングリも有効使用しながら地域の物を使った新たな商品開発に向けて取り組んでいきます。

(2) 生活プログラムについて

今年度は、食を通し地域との交流や食文化の継承を図る活動を計画し、梅干しや味噌、こんにゃく作りを行いました。地域の方に講師をしていただき、経験を生かした体験教室では皆で楽しいひと時を過ごしました。

調理実習では、小グループに分かれて近隣の商店街へ買い出しに行きました。間違っ買ってきた品物もそのまま使うなどしながら、繰り返し買い出し体験をする事で素材を覚えるきっかけとなりました。

忘年会や新年会をラフォーレさくらで行いました。外出レクなどに中々参加できない利用者にも声かけをして参加していただきました。個人面談では、楽しかった事のひとつとして忘年会や新年会で皆と過ごせた事を伝えてくれた利用者もいました。

バレンタインデーやホワイトデー向けのスイーツ作りとして、男性利用者と女性利用者が分かれて行い、とても好評でした。また、回を増すごとに、工程の流れが身に付き包丁使いにも慣れてきた蕎麦打ち体験も行い皆で堪能しました。

クラフト教室では、一人ひとりが寸法を測りカットするところからはじめたので、少人数での実施とサポートが必要でした。わかりやすく作業を行うための手順書などを準備しましたが、寸法通りの組み立てとなると難しく感じた利用者が多くいました。

開催年月	プログラム内容	
平成 28 年	4月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・押し花教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（煮物他） ・ベランダ菜園作り ・歯科検診 ・お花見 ・日帰り旅行（大宮鉄道博物館）
	5月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・調理実習（ホットケーキ他） ・ベランダ菜園作り ・新庁舎見学 ・ふれあいスポーツ大会 ・他施設見学
	6月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・調理実習（酢の物他） ・体験教室（梅狩り／シロップ作り） ・テーブルマナー教室
	7月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・調理実習（冷スイーツ他） ・体験教室（味噌作り／梅干し作り） ・健康診断 ・巡回相談（理学療法士） ・他施設見学
	8月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（冷スイーツ他） ・ぴっかり前日祭 ・若宮八幡宮祭
	9月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（冷スイーツ他） ・体験教室（蕎麦打ち） ・外出レク（野毛山動物園） ・レインボーフェスタみなみ
	10月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（おはぎ他） ・体験教室（蕎麦打ち） ・外出レク（映画鑑賞／むさしの森コーヒー／三溪園）
	11月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・レクホールスポーツ ・体験教室（蕎麦打ち／こんにゃく作り） ・外出レク（映画鑑賞） ・日帰り旅行（ディズニールランド） ・フォトコンテスト撮影会（三溪園） ・本大岡地区主催行事（みかん狩り）
平成 29 年	12月	・機織り講習 ・タイルアート教室 ・レクホールスポーツ ・体験教室（蕎麦打ち） ・忘年会 ・みなみわっしょいコンサート ・福祉の未来を考える集い ・おみせサンタ（弘明寺商店街スタンプラリー）
	1月	・機織り講習 ・クラフト教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・体験教室（みるく饅頭作り） ・初詣（弘明寺／若宮神社） ・新年会
	2月	・機織り講習 ・クラフト教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（カップケーキ他） ・非常食体験 ・防災拠点訓練（大岡小） ・一時避難所訓練（中島町公園）
	3月	・機織り講習 ・クラフト教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（チョコパイ他） ・外出レク（回転寿司／桜撮影会） ・訪問看護（南区医師会）

3. 地域交流について

地域交流として、防災訓練、けんこう講座、地区主催行事などに参加しました。イベントへの協力や設備提供、体験教室などの行事を通して、地域住民との相互理解の構築となりました。

開催年月	行事	場所	参加者	
平成 28 年	5月 けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ	
	6月 けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 神奈川エアロビック連盟	
		梅シロップ作り体験	ラフォーレさくら	地域住民
	7月 味噌作り体験	ラフォーレさくら	地域住民	
		梅干し作り体験	ラフォーレさくら	地域住民
	11月 こんにゃく作り体験	ラフォーレさくら	地域住民	
		みかん狩り	金沢文庫	本大岡地区町内会
		収穫祭	大岡小学校	本大岡地区町内会
	12月 福祉の未来を考える集い	横浜公園	市内作業所・活動ホーム グループホーム・当事者・家族・職員	
		おみせサンタ	弘明寺商店街	南区社会福祉協議会 商店街周辺住民 はぐはぐの樹(利用者・家族)
平成 29 年	1月 けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ	
		みるく饅頭作り体験	ラフォーレさくら	地域住民
	2月 防災拠点訓練	大岡小学校	本大岡地区社会福祉協議会 地域住民	
		中島町3.4防災訓練	中島町公園	地域住民

4. 学習・研修参加

研修会や学習会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めました。

開催月	研修・講演会名	場所	参加者	
平成28年	4月	・福祉を創る学校 ～法人を創り、事業所を創る～	横浜市 技能文化会館	阿部
		・介護職員初任者研修（4月～9月 全16回）	湘南国際アカデミー 藤沢校	阿部
	10月	・問題行動への対応について	どんとこいみなみ	阿部 富田
		・精神障害者への緊急事態の対応と 事例に基づき学ぶ	南区福祉保健活動拠点	阿部
		・介護職員実務者研修（10月～12月 全7回）	湘南国際アカデミー 藤沢校	阿部
	12月	・利用者の高齢化について	南福祉ホームむつみ	阿部
・医療的ケア演習（全2回）		湘南国際アカデミー 藤沢校	阿部	
平成29年	2月	・生活保護制度の目的と基礎原理・原則について 生活保護を利用するにあたっての基礎知識 生活保護ケースワーカーについて	ウィリング横浜 12階 研修室	阿部
	3月	・移動・移乗介護の研修	社会福祉法人ひかり	阿部 富田

5. 防災訓練について

9月と2月に行われた防災訓練に参加しました。一時避難場所となっている公園へ集まり安否確認や点呼をした後、地域防災委員誘導の元、住民の方々と共に指定避難所へ移動し、消火活動、救助活動、煙幕、起震車体験など大規模訓練に参加しました。また、防災拠点訓練では、非常電話や簡易トイレの説明を受け、発電機操作や貯水槽の見学、体育館のスペース作りなど、いずれも貴重な体験をすることができました。

6. 他機関との連携

ご家族や、担当ケースワーカー、グループホーム職員との情報共有や現状の把握、医療機関や行政などとの連携を深め、定期的なカンファレンスを行いました。また、事務局会議や運営委員会などを通し、地域自立支援協議会に関わる他の支援者など、様々な立場の方々との意見交換を行いました。

Ⅲ. 後見的支援センター とつかエコー

1. 今年度の取り組み

(1) 初年度登録者への支援振り返り

登録者数の推移は以下の通りです。

H27 年度上半期 (H27. 3～H27. 9 ※ 7 ヶ月)	22 名
H27 年度下半期 (H27. 10～H28. 3)	8 名
H28 年度上半期 (H28. 4～H28. 9)	6 名
H28 年度下半期 (H28. 10～H29. 3)	13 名

今年度は、初年度の登録者の方について、後見的支援の振り返り～支援計画の更新を順次行いました。

登録後の最初の後見的支援計画は、その期間を1年に設定する機会が多いため、これらの方々の“振り返り”～“支援計画更新”と、2年目の新規登録者の支援計画作成が重なり、スムーズに“更新”が進まない(計画期間内に更新できない)ケースがありました。

振り返りにあたっては、独自の様式を作成し、“将来にわたるあんしん”という視点から気づいたこと、感じたことを確認できるように努めました。

(2) 会議

横浜市・障害者支援センター主催の会議に参加しました。

「とつかエコー」内の会議としては、全体の課題共有・合意形成を目的とした職員会議を上半期は月1回行いました。下期は、登録者増(面談等の増)によりスタッフの日程調整が難しくなり、定例開催はできませんでした。

利用者支援・アセスメントのための支援会議は月2回開催しました。管理者および推進法人の統括マネジャー(※正式には“横浜市マネジャー”)にも出席いただき、支援上のアドバイスをいただきました。

(3) (制度) 説明会

制度説明会は、計 11 回行いました。内 2 回は、泉区支援室と合同で行いました。長く時間をいただいていた説明会の他、様々な会議等で少し時間をいただいていた説明をさせていただくこともありました。

月日	説明会（場所・対象者等）
4月4日	『ハートフルリテラ』
4月6日	『(社福) クローバー』
5月11日	地域ケアプラザコーディネーター連絡会
5月30日	『ほっとスペース結』
6月15日	『ハートフルリテラ』 家族懇談会
6月20日	『いずみ会館』 家族懇談会
6月29日	『いずみ福祉作業所ゆう』 家族懇談会
9月1日	柏尾小学校 保護者学習会
10月17日	『ふれんど 45』 家族学習会
10月28日	『窓の会』 地域サポーター養成講座
12月20日	『マザー原宿』

(4) 地域連携

これまで同様、戸塚区地域自立支援協議会等を通じて、また、自立支援協議会の枠内にとどまらない地域連携に取り組みました。

昨年度からの活動を通じて、地域ケアプラザとの連携の重要性を改めて認識しました。また、各ケアプラザの特色も分かってきました。

今年度は、特に『上倉田地域ケアプラザ』との連携が中心となりました。

『上倉田地域ケアプラザ』からの情報提供で登録になった方、登録にはなっていませんが、継続して関わっている方が数名おられます。

他のケアプラザへの協力要請がしやすくなるよう、引き続き、連携事例を増やします。

(5) 組織体制

4月にサポーター1名が退職しました。入れ替わりに、他区でのサポーター経験者を採用し、5月から新体制となりました。

この新サポーターを7月から週4日勤務、10月から常勤雇用に変更しました。

(6) 研修

職員の基礎知識の獲得と、専門性を高める研修に参加しました。

8月を除いて毎月行われた『障害者支援センター』(市社協 ※推進法人)主催の「事例報告会」には、毎回ほぼ全員で参加しました。

月日	研修会	参加者
4月12日	サポーター実践を通して	石井・清水
4月15日	事例報告会	石井・清水・宮坂
4月17日	福祉を創る学校	宮坂
5月20日	全体研修	石井・佐々木・清水・宮坂
6月4日	フリースペース・ぼぼら学習会	宮坂
6月17日	事例報告会	石井・佐々木・清水・宮坂
6月20日	ふれんど45学習会	佐々木・清水・宮坂
6月23日	全国知的障害関連施設長等会議	宮坂
7月15日	事例報告会	佐々木・清水
7月24日	せや活動ホーム太陽学習会	宮坂
9月11日	福祉を創る学校	宮坂
9月17日	りんご会学習会	宮坂
9月21日	ピープルファースト横浜大会	宮坂
10月1日	フリースペース・ぼぼら学習会	宮坂
10月12日	障害児者への性の支援	佐々木
10月17日	高次脳機能障害	清水
10月21日	事例報告会	石井・清水・宮坂
11月18日	事例報告会	石井・佐々木・清水・宮坂
12月3日	当事者研究	清水・宮坂
12月7日	戸塚区社協障がいシンポジウム	石井・佐々木・清水・宮坂
12月8日	障がい福祉の未来を考える集い	佐々木・宮坂
12月16日	事例報告会	石井・佐々木
1月16日	県知的協会学習会	宮坂
1月21日	働きたい！あなたのシンポジウム	清水・宮坂
1月22日	福祉を創る学校	宮坂
1月24日	災害シンポジウム	宮坂
2月13日	戸塚の未来を考えよう	宮坂
3月7日	名瀬地域ケアプラザ講演会	宮坂
3月8日	リフレーミングの考え方	石井・佐々木・宮坂
3月15日	真理プロジェクトから成年後見制度へ	清水・宮坂

(7) その他

“あんしんキーパー”は、ご本人・ご家族の了承のもと、1月にお一人の方に依頼しました。

IV. ホープ川上

はじめに

本人・家族の願いと想い、そして当法人の「人間らしく生きること」という理念実現の一つの形として平成 29 年 1 月にグループホームを開設しました。

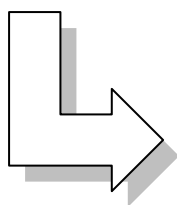
1. 利用実績

東戸塚地域活動ホームひかりの日中活動を利用している 4 名の方と契約し、2 月から共同生活をスタートしています。

365 日運営・夜間支援体制を整えたグループホームとしていますが、新しい環境に徐々に馴染んでいきたいという家族の希望もあり、日中活動が休みとなる週末は自宅に帰られる方がほとんどでした。

障害支援区分	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3
利用者数	1 人	2 人	1 人	0 人

各月の状況	平成 29 年			
	1 月	2 月	3 月	計
サービス提供日数	0 日	21 日	26 日	47 日
区分 3 の総延べ利用者数	0 人日	0 人日	0 人日	0 人日
区分 4 の総延べ利用者数	0 人日	21 人日	26 人日	47 人日
区分 5 の総延べ利用者数	0 人日	28 人日	32 人日	60 人日
区分 6 の総延べ利用者数	0 人日	18 人日	22 人日	40 人日
全利用者数	0 人日	87 人日	80 人日	147 人日



利用者の数		3.2 人
内訳	区分 3 の利用者数	0 人
	区分 4 の利用者数	1 人
	区分 5 の利用者数	1.3 人
	区分 6 の利用者数	0.9 人

2. 職員体制

生活支援部を担当していた職員 1 名が 1 月にグループホームへ異動となりました。また、12 月に夜勤を担当する職員 1 名と、1 月に調理と清掃を担当する職員 1 名の計 2 名を新規に採用しました。

3. 利用者支援

(1) 食事提供

食材宅配業者から献立付の食材を仕入れ、調理担当の職員が味はもちろんのこと、見栄えや量的なことを考慮して料理を提供しました。なお、食材宅配業者の選定にあたっては、各社のお試しセットを利用して配達方法、食材の品質、調理のし易さ、試食を行い決定しました。

常に衛生上の安全には細やかな気を遣い、手・食器類の消毒等安全管理に努めました。

(2) 健康管理

毎日入浴前と起床時に職員がバイタルのチェックを行いました。また、利用者の表情等に細心の注意を払って健康管理に努めました。

(3) 生活支援

食事・入浴・排泄・洗濯・掃除等において繰り返しの声掛け、必要に応じて一緒に行うことで本人への意識を高めるよう支援しました。